



この子は男子の間で
よく話題に上がる
地味だが巨乳の
クラスメイト

今まで一度も会話を
したことがない
赤の他人の僕が

今何故かその子の
部屋に上がり込んでいる



ただ
「消しゴムを拾ってあげた」
それだけの行為に対して

彼女はお礼が
したいと言い

「おっぱいが触りたい」

とつい口を滑らせた
バカな僕の願いを
律儀に叶えようと
してくれているのだ



ワアア...

ほ...本当に
いいの...!?

.....
うん

私のなんかで
...いいなら...

!!

いやっ...
むしろ君のが
...!!

.....
.....

すると
彼女は恥ずかしそうに
服を脱ぎ出し
糸纏わぬ姿になった

え...!?

ぜ...
全裸!?

ふるんっ

...?

あついや
何でも
ない...!



おっぱい堪能タイム…

ふるる〜ん

それから僕は
初めての生おっぱいを
前に思考が停止して
しばらく眺め続けていた

……

やっぱり
……嫌?

ちっ…違う!
めちやくちや
キレイで…
言葉失ってて

…じゃあ
さ 触るね







永遠と揉みしだき続けて
いたいほど気持ちのいい
感触に童貞の僕が我慢
できるわけもなく

許可もとらずに
むしゃぶりつき
乳首を吸ったり
舐めまわしたりした

そしてその都度
文句も言わず
声を殺し耐える
その姿に

僕はもう理性を
抑えていられ
なかった

気が付けばズボンを
脱ぎ捨て
上にまたがっていた

.....!?

ビュッ

それでも彼女は
押しのけようという
姿勢をまったく見せない

むにゅ

むにゅ

僕はその反応を見て
これがまだ「お礼」の
範疇にあるものだ
と確信し腰を振り出した

舐めまわした時の
自分の唾液と
カウパーと二人の汗で
中はぐちよぐちよで

既に限界まで
勃起していた俺は
すぐに絶頂に達した



射精してふと
我に返り

自分が何をしでか
したかに気づいた

はっ!?

……

ご…ごめん! 僕
我慢できなくなつて…

……ううん
私こそ…ごめん

え?

私…〇〇くんの
こと……

好きなの…

……ええ!?

な…
何言つて

いつも一人でいる私に
話しかけてくれるし

すはよ

一人で掃除してる時も
手伝ってくれたりして
優しい人だなんて
ずっと思ってた…

それなのに私…
人前で喋ったりできないから
一度も会話すらできなくて
…それが辛かった

緋に
いい?

……

だから消しゴムを拾って
くれた時…
チャンスだと思ったの

はいこれ

喋れはしないけど
私…自分の胸が
男の子たちにとって
価値があるものだって
噂されてるのを
知ってたから

!?

おれがしたいです。
何て生一ツ言うに聞きます。
エロいことでも可。

ほ…本気？

んっっ…!?

こんな方法でしか
繋がり方…
分かんなくて
仲良くなりたくて

気持ち悪いよね
こんなのっ…
私本当は普通に

ちゅっ…



あの時
「付き合ってほしい」って
頼む勇気がなくて

欲に負けて
おっぱい触りたいとか
言っちゃって…ごめん

それでも…

こんな僕でも
まだ好きでいて
くれるなら！

好きです

僕と
付き合って
下さい！

……あ

……あの



今日うち
.....

誰も帰って
こないの...♡

.....

.....





そのあとめちやくちや
突きあった♡